

日本家族社会学会ニューズレター

Japan Society of Family Sociology Newsletter

No. 70

2023年5月16日発行

編集 佐々木尚之（庶務委員・広報担当）

発行 日本家族社会学会事務局

〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町1-33

千葉大学 文学部 米村千代研究室

☎ 043-290-2289

目次

会長挨拶	1
日本家族社会学会第33回大会のご案内	2
理事会報告	4
岩間暁子先生を偲んで	4
各種委員会報告	5
事務局だより	9
会員異動	9
編集後記	10

会長挨拶

山田昌弘（日本家族社会学会会長／中央大学）

コロナ禍もどうやら治まりつつあり、行動制限も緩和されるなか、会員のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。今年度初めてのニューズレターをお届けいたします。

年初の首相の「異次元の少子化対策」宣言や、2022年の出生数80万人割れのニュース、そして、LGBTQ関連法案の検討や統一地方選挙での女性議員の増加の報道などをみると、足下で大きく変化している家族やジェンダーのあり方が、やっと一般の人々の関心を集め始めています。家族社会学で培われた知見が、社会の中で大いに活用される機会が来ていると思います。学会は、今後ともみなさまの研究活動をサポートしていく所存です。よろしくお願い申し上げます。

2023 年度より、終身会員制度がスタートしました。年配の会員のみなさまがより長く学会に関わっていただくための制度です。該当される方の申し込みをお願いします。

また、今期の理事会発足直後、理事の岩間暁子先生が逝去されました。残念でなりません。理事会一同、これまでの学会活動へのご尽力に感謝申し上げるとともに、ご冥福をお祈りいたします。

日本家族社会学会第 33 回大会のご案内

平井晶子（第 33 回大会実行委員長／神戸大学）

日本家族社会学会第 33 回大会は、2023 年 9 月 2 日、3 日に神戸大学六甲台第 2 キャンパスにて開催いたします。昨年に引き続き対面での開催を予定しています。大会が開催される 9 月にはポストコロナに向けて社会が本格的に動き出し、相当「日常」が戻っていると考えておりますが、現段階で先を見通すことは難しく懇親会は開催しないことといたしました。そのかわり土曜の最後に交流会を開催し、できれば「お茶とお菓子！」で歓談できる機会を持ちたいと考えています。

大会実行委員会は、実行委員長の平井晶子のほか、中谷奈津子会員（神戸大学）、非会員の梅村麦生先生（神戸大学）の 3 名で担ってまいります。加えて神戸大学社会学研究室の院生たちのサポートを得て運営していきたいと思っております。充実した学会大会となりますよう準備を進めながら、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

1. 日程：9 月 2 日（土）、3 日（日）
2. 会場：神戸大学六甲台第 2 キャンパス

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1

阪急神戸線「六甲」駅（徒歩 15～20 分、タクシー 5～10 分）

神戸市バス 36 系統 鶴甲団地行乗車 「神大文理農学部前」下車

JR 神戸線「六甲道」駅（タクシー 10～15 分）

神戸市バス 36 系統 鶴甲団地行乗車 「神大文理農学部前」下車

* 遠方からのアクセス等は大学ホームページをご覧ください。

<https://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokko/index.html#far>

* 徒歩の場合、上り坂が続きます。バス停も学部ごとにちがいます。ご注意ください。

3. 参加方法

昨年と同様、大会ホームページでの事前登録と参加費の納付（クレジットカード払い）が必要です。当日参加は受け付けていません。期日までにお申し込みください。

大会ホームページ

<http://www.jsfs-family sociology.org/conf/2023/index.html>

会員の大会参加費は、一般 4000 円／学生・減額会員 2500 円です。非会員の大会参加費は、一般 5000 円／学生 3000 円です。お茶とお菓子のある交流会（参加無料、事前参加アンケートあり）を予定しています。ふるってご参加ください。

4. キャンセル料

オンラインに切り替わった場合、参加費は変更しません。中止の場合、参加費は返金しません。ご理解のほどよろしく願いいたします。

5. 災害などによる対応

ホームページのキャンセルポリシーをご覧ください。

6. 昼食

両日とも、事前にお弁当購入の申込を受け付けます。大会申込とは別にお申し込みください。お弁当代は当日現金でお支払ください。近隣にはレストランはありません（駅まで下ればあります）。近くの生協も閉まっています。学内のコンビニは徒歩 5 分、1 店舗のみです。ご注意ください。お弁当購入の申込方法については、大会ホームページに掲載いたします。

<http://www.jsfs-family sociology.org/conf/2023/participant.html>

7. 宿泊

宿泊につきましては、各自で手配をお願いいたします。JR 三宮駅/ 阪急神戸三宮駅、JR 元町駅周辺にはホテルも多く、とても便利です。大阪駅や新大阪駅周辺からも比較的便利です。詳細はアクセスと同じ大学ホームページをご覧ください。

8. 託児サービス

今大会では託児サービスを実施する予定です。まだ詳細は決まっていますが、決まり次第、大会ホームページでお知らせします。

9. Wi-Fi

学内では無料の Wi-Fi サービスを実施できる予定です。当日受付にてご利用方法をご確認ください。

10. 大会に関するお問い合わせ先

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学文学部 平井晶子研究室内

日本家族社会学会第 33 回大会実行委員会

E-mail: jsfs-taikai☆bunken.co.jp（☆を@に変えてください）

ただし、大会申込、参加登録、事前納付等についてのお問い合わせは、以下の日本家族社会学会大会ヘルプデスクにお願いいたします。

E-mail: jsfs-desk☆conf.bunken.co.jp (☆を@に変えてください)

理事会報告

第11期第2回（2022年度第3回理事会議事録（抄）（略）

●岩間暁子先生を偲んで

村上あかね（桃山学院大学）

多くの方々から敬愛された岩間暁子先生（立教大学社会学部）（以下、岩間さん）は2022年9月に逝去されました。岩間さんは北海道のご出身で、北海道大学文学部に進学して同大学で博士号を取得しました。共に白倉幸男先生に師事したことから、岩間さんは私にとって先輩になります。

経歴や業績は researchmap で確認できますが、岩間さんは計量的アプローチを中心に女性就労、家族関係、家族形成、格差・不平等、社会的排除と包摂、マイノリティ・多文化共生などのテーマに取り組んでこられました。また、『家族社会学研究』編集委員・専門委員、学会賞選考委員、日本学術会議連携会員として学界の発展にもご尽力されました。有斐閣や放送大学の教科書は多くの学生・院生・研究者らに読まれています。近年ではコロナ禍の学生に寄り添うなかで近代家族論を再検討し、2022年の日本社会学会シンポジウムでの報告とその書籍化を進めていましたが、果たせず『家族社会学事典』が遺稿となりました。

岩間さんが亡くなった後、何人かの方と思い出を語り合いましたが、率直かつ優しいコメント、フェアでポジティブな姿勢に励まされたり、困っているときにそっと助けていただいたりしたのは私だけではありません。ご自宅で鮭のちゃんちゃん焼きをご馳走になったことがあり、毎年秋になると私も作るようになりました。手元には勉強会での丁寧なレジュメが残っています。研究・教育への真摯な姿勢、朗らかな笑顔を折に触れて思い出します。

岩間さんの遺志をそれぞれの場所、それぞれの形で引き継ぐことが残された私たちの務めといえるでしょう。改めて心からの感謝とご冥福を申し上げます。

各種委員会報告

編集委員会

1. 『家族社会学研究』35巻1号および2号の編集状況について

編集委員会は、学会誌『家族社会学研究』の編集業務を、1号は東の編集委員チームが担当し、2号は西の編集委員チームが担当するという二元体制で遂行しています（委員長は両方に関わりません）。昨年9月から第11期の最初となる35巻1号の編集業務が東のチームによって開始されました。第1回の編集委員会はハイブリッド方式で開催しましたが、その後はオンライン会議で編集作業を続けています。この間予期せぬいくつかの事情が重なり、当初の刊行予定は2023年4月末でしたが、会員のお手元に届くのは現在のところ1カ月遅れとなる見込みです。発行を楽しみにしてくださっている会員の皆様、とりわけ投稿者・査読を担ってくださった専門委員および依頼原稿をご執筆いただいた皆様にお詫び申し上げます。

また、3月には西のチームで、10月末の刊行をめざして35巻2号の編集業務が始まりました。年度末と年度初めを挟み、いつにも増して仕事繁多な折ですが、そのようななか、査読や原稿依頼を受けてくださった皆様には、心より感謝申し上げます。

編集作業は編集事務局と緊密に連絡をとり、編集委員全員が鋭意業務に携わっていますが至らない点多々あるかと思えます。皆様からのさらなるご協力をいただけましたら幸いです。

2. 「投稿申込書」の改定について

すでに35巻2号の投稿から活用いただいておりますが、2023年1月に「投稿申込書」を改定し、学会ホームページに改定版ファイルを掲載しております。このたびの変更点は、2点です。1点目は投稿規程5.にしたがって関連論文の有無を申告していただき、関連論文がある場合には投稿時にすべてを添付し、論文情報を当該論文1ページ目の上部に記載してもらうようにしました。2点目は過去の投稿履歴を申告いただき、過去に本誌で掲載不可もしくは取り下げた論文に修正を加えて再投稿するものである場合には論文番号とタイトルを記載してもらうようにしました。

本誌編集に関わる諸規程では「再投稿」という位置づけはなく、掲載不可となった場合も、次号以降には「新規投稿」として受け付けていますが、過去に掲載不可もしくは取り下げた論文に修正を加えた投稿が一定割合認められること、また関連論文の添付を徹底する意図から改定いたしました。投稿される会員の皆様にはお手数をおかけしますが、事務局の受付作業がスムーズになり、編集委員会でも確認しやすくなることに対してご理解をいただけますようお願いいたします。

（杉井潤子・同志社大学）

研究活動委員会

1. 第33回日本家族社会学会大会（2023年9月2日・3日）について

「大会ニュース No.1」（4月7日発行）でお知らせしましたように、第33回日本家族社会学会大会は、平井晶子会員（神戸大学）に実行委員長をお引き受けいただき、対面での開催にむけた準備を進めています。実行委員会とも協議した上で、この大会においてはオンラインでの配信を原則実施しないことにいたしました。また、自由報告についてもポスターセッションは実施せず、口頭報告のみとなります。開設いたしました第33回大会オフィシャルサイトもご覧ください。

シンポジウムは、「地方暮らしの若者からみる新時代の家族（仮）」を予定しています。格差、不平等、社会的排除といった諸問題は、どの世代にも認められる現象ですが、インターネットの普及やコロナの影響は、特に若い世代の働き方や住まい方に、さまざまな変化をもたらしていると指摘されています。また、そうした変化の様相は、地域によって異なることも予想されます。そこで今回は、若者の生活や労働、およびそれらの地域差に関して、近年調査研究を進めておられる専門家を招いてお話を聞き、「新時代の家族」を考える出発点と位置づけたいと考えます。機能分化した近代社会において連字符社会学が成立し現在に至りますが、ゼロ年代以降その境界があいまいになってきたとの指摘もあります。家族社会学以外の社会学者との対話をふまえ、家族社会学における新しい視点を発見し、構想する場をつくることをめざしたいと考えています。パネリストとして轡田竜蔵氏（同志社大学）、阿部真大氏（甲南大学）に話題提供をしていただき、討論者は、久保田裕之会員（日本大学）、田淵六郎会員（上智大学）を予定しています。

テーマセッションおよび特別セッション（国際セッション、ラウンドテーブル、書評ラウンジ）の企画申請は、5月9日（火）に締め切り、採択結果は個別に連絡いたしました。また、自由報告の申し込みは、報告要旨原稿とともに5月31日（水）が締め切りです。第33回大会オフィシャルサイトよりお申し込みください。その際、マイページへのアクセスと同じID（会員番号）とパスワードが必要になります。皆様からのお申し込みをお待ちしています。大会参加方法等につきましては、本レターの大会実行委員会記事でご確認ください。

2. 報告申し込みの資格要件について

大会で報告していただく方は、申込み前に、本学会が定めた資格要件を満たす必要があります。メルマガでもお知らせしていますが、大会ウェブサイトでご確認のうえ、年会費の支払い、また新入会員の方は入会申し込みなど、要件を満たしていただくようお願いします。

（木戸 功・聖心女子大学）

庶務委員会・事務局

1. 会勢について

2023年3月22日時点の会員数は706名（一般会員517、一般会員（顧問）6名、学生会員96名、会費減額会員86名、団体会員1名、賛助会員0名、会費免除会員0名）です。

2. 第32回日本家族社会学会大会 会計決算の監査について

すべての会計書類について監査を行い、相違ないことを確認しました。

3. 今年度の学会事務業務委託契約について

昨年度に引き続き、4月1日から学会事務業務を委託する契約を国際文献社と3月31日付で結びました。

4. 会費納入について

新年度の会費納入の依頼がお手元に届いていることと存じます。すみやかな会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。なお、会費納入は可能な限り、郵便振込みないしは銀行振込みをご利用いただけますと幸いです（クレジットカードの場合、利用料が事務経費の負担になります）。また、カード決済が可能な期間は4－6月ですので、利用申し込みを含め、早めにご対応をお願いします。

5. 会費の減額申請について

常勤職にない会員の方は会費減額申請を行うことができますが、65歳未満の会員については、毎年申請し承認を受ける必要があります。承認の連絡を受けてから会費をお振り込みください。5月末が申請期限となっておりますので、お急ぎください。申請手続きの詳細は、学会ウェブサイトの「お知らせ／人事公募」>「会費減額申請」(http://www.jsfs-family sociology.org/notice/not_4.html)に掲載されています。65歳以上の会員の方は、一度承認されれば以後手続きの必要はありません。

6. 理事会議事録作成について

11期の理事会発足時より、山崎 智慧子会員（一橋大学大学院）に議事録作成をお手伝いいただいています。

（米村千代・千葉大学）

全国家族調査 (NFRJ) 委員会

NFRJ（全国家族調査）の近況についてお知らせします。NFRJ18 研究会は二次報告書論文の冊子に関係者に郵送し、科研の活動を終了しました。連動して実施されていた NFRJ 質的研究会では、現在、書籍出版の予定が進められています。また、学術変革領域研究（A）（生涯学の創出：超高齢社会における発達・加齢観の刷新）の一環として、2024 年度に NFRJ-S23 の実施が準備中です。次に、データの寄託状況です。NFRJ-08Panel までのデータは SSJDA で公開されており、最新の NFRJ18 データの寄託準備が進められています。ICPSR（現在、NFRJ08 のみ公開）についても、NFRJ98、03 に遡って寄託を進めています。その他、学会大会セッションや『家族社会学研究』NFRJ コーナー等を通して、学会員と NFRJ との関りを深める活動を今後も継続していきます。

（保田時男・関西大学）

学会賞委員会

学会賞委員会では、ニューズレターNo.69 でお知らせしたとおり、現在、奨励論文賞の選考対象業績の範囲のさらなる明確化に向けて、オンライン掲載のみの論文や冊子体の刊行前にオンラインで公開される論文の取り扱い方針について検討しているところです。

日本家族社会学会賞については、2024 年度の学会大会で第 3 回奨励著書賞を、2025 年度の学会大会で第 10 回奨励論文賞を授与する予定です。

（多賀 太・関西大学）

家族社会学事典委員会

現在、原稿がほぼ集まり、入稿、校正作業に入っています。原稿提出いただいた先生方、本当にありがとうございます。何項目か未提出の原稿があり、現在その取り扱いについて検討中です。執筆された方々には、修正、校正等のご依頼が行っていると思いますが、ぜひ前向きにご検討いただければ幸いです。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

（山田昌弘・中央大学）

社会学系コンソーシアム担当理事

(1) 日本家族社会学会第 11 期理事会での社会学系コンソーシアム評議員は、久保田裕之理事と多賀太が担当します。多賀は、第 10 期の白波瀬佐和子理事が務めておられた社会学系コンソーシアムでの広報担当理事も引き継ぎました。

(2) 2023 年 1 月 28 日（土）、社会学系コンソーシアム第 7 期第 3 回理事会と第 15 回評議員会が

オンラインで開催され、理事会には多賀が、評議員会には久保田理事と多賀が出席しました。理事会・評議員会では、理事・監事及び評議員の確認と2022年度事業報告が行われ、2023年度事業計画、2022年度決算、2023年度予算案、顧問の新設に伴う規約改正について審議・了承されました。

(3) 同日、上記評議員会終了後に、社会学系コンソーシアム2022年度(第15回)シンポジウム「ダイバーシティ推進と日本社会の〈不平等〉」がオンラインで開催されました。

(4) 2023年3月27日(月)、社会学系コンソーシアム第7期第4回理事会がオンラインで開催され、多賀が出席しました。2023年度事業予定、理事・監事選挙手続き、次回シンポジウムについて協議が行われました。

(5) 2023年3月末、社会学系コンソーシアムニューズレター第16号が刊行されました。「国際動向」欄には、本学会の濱野健会員と白波瀬佐和子会員にご寄稿いただきました。2023年6月オーストラリア・メルボルンでのISA世界社会学会議開催を目前に控え、社会学の国際化に関わる有益な情報が記されています。上記シンポジウムの報告も掲載されています。ぜひご一読ください。

http://www.socconso.com/newsletter/JCSSNewsletterNo.16_202303.pdf

(多賀 太・関西大学)

事務局だより

4月1日より終身会員制度がスタートしています。詳細は、「終身会員について」をご覧ください。年内に学会事務センターのアドレスが以下のように変更になります。

現メールアドレス：jsfs-post@bunken.co.jp

新メールアドレス：jsfs-post@as.bunken.co.jp

学会事務局および編集委員会事務局など他の学会関連のアドレスに変更はありません。

(米村千代・千葉大学)

会員異動(略)

編集後記

新年度が始まり、異動や生活スタイルが変化した方も多いのではないのでしょうか。心機一転して物事に取り組む際に、連絡先の変更もお忘れなくお願いいたします。メールマガジンを通して、会員のみならずみなさまに有益な情報を月に5件程度配信しています。メールマガジンを最近受け取っていないという方は、学会ウェブサイトの会員専用ページから「会員情報の変更・確認」へ進み、登録しているメールアドレスの確認をお願いします。またメールマガジンを「受信しない」に設定していた場合も受け取ることができません。受信を希望される方は「受信する」に設定していただきますようお願いいたします。第33回学会大会のお知らせも多くの方に不達となり大変申し訳ありませんでした。原因を究明中ですが、暫定的に別のアドレスからお知らせを配信する措置をとっています。ご不便をおかけしますが何卒ご理解いただきますようよろしくお願い申し上げます。

(佐々木尚之・津田塾大学)